

第3学年 社会科の実践

1 単元名 「わたしたちのまちと市」 (全21時間 本時16時間目)

2 単元目標

単元目標

- 身近な市の様子を大まかに理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身につけることができる。
- 身近な市の場所による違い、人々の生活との関連などを与え、考えたことを表現することができる。
- 身近な市について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情をもつことができる。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題 「子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ・・・「追究する力、仲間と支え合う自分」

- ・自分の問題をとことん追究する姿
- ・仲間と協働して追究する姿

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

学習の様々な場面で、「自分でやってみよう」「こうしたらいいんじゃない?」という意欲や発想豊かな考えが見られる。運動会に向けての話し合いでは、活発に意見を出すことができていた。

道徳の学習では、全員が学習に参加できるように、自分の立場を名前マグネットで明確にし、理由を伝える活動を取り入れている。算数の「わり算」の学習では、問題の解き方を図で表し、説明をする中で、自分の考えと比べたり、友達の考えに自分の考えをつなげていったりする姿が増えてきた。また、「なるほど」「そうか」「だからそう考えたんだ」という友だちの考えに自然に反応する姿も見られてきた。つぶやきを互いに大切にできる雰囲気づくりを継続して行っていきたい。

しかし、話し合いの手順が分からなくて自分の考えをもてずにいると、一部の児童だけで話し合いが進み、人まかせになってしまうことがある。そこで、少人数での話し合い、意図的なグループ構成、考える時間の確保、伝え合いの手順を示し、全員が話し合いに参加し、自分事として課題を解決できるようにしていきたい。また、「できることからやってみようという前向きな気持ち」と「自分や仲間の気づきや疑問を共有し、みんなで考えを出し合える雰囲気づくり」を大切に進めていきたい。そして、「仲間との伝え合い活動を通して、自分の考えを広げ深める」というひびき合える姿を目指したい。

本単元は社会科であり、町探検に行き行って調べた経験が共通の土台として話し合いをしたり、友だちと考えを出し合ったりして進められるようにしていきたい。

〈単元について〉

本単元は、次の学習指導要領の内容を受けている。

内容（１）「身近な地域や市区町村の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」

ア 次の知識及び技能を身に付けること

（ア） 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること

（イ） 観察・調査したり地図名などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。

イ 次の思考力、判断力、表現力等を身に付けること

（ア） 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え表現すること

本単元では、身近な地域や市の様子を探検や調査活動を通して、課題を追究・解決し、自分が住んでいる町や市の特徴を知り、地形を生かしたよさに気づき、まとめることができることがねらいとしている。

小単元「まちの様子」で町探検を行い、自分たちが住んでいる身近な地域や自分たちが通う学校の周辺地域とは様子の違うところが市内には存在する。このことに気付くことによって、市全体の様子に興味をもち、その違いを「市の地形と土地利用」「交通の様子」「小田原の歴史を伝えるもの」「市にある公共施設」に着目して比較する。本単元では、市全体へと広がるため、実際に見学できないところは、調べ活動や地図や資料を活用する必要が生じる。そのため、地図や資料の読み取り方を身につけたり、読み取ったことから複数の条件と関連付けて考えたりすることができる機会となる。そして、身近な地域や市の様子をとらえ、地域の違いを表現するという資質・能力を高めることを目指して、各地域の特色を地図にまとめていく学習が有効と考え設定した。また、調べ活動を通して、小田原市のよさや魅力を発見し、地域への誇りと愛情をもつことができると考える。

4 単元と指導について

〈指導について〉

導入で、町探検と小田原城の天守閣から四方位で町の様子を観察し、違いや特徴に気づいたり、よく分からない場所や遠くに見えるものは何か疑問をもったりする。町探検で目にした「小田原のお土産」を取り上げて、小田原市には自分が住んでいる地域だけでなく、もっと他の地域があることや地図を見て位置を知り、「小田原についてもっと知りたい。」という思いをもたせる。

次に、山・川・海の自然に恵まれている特徴と各地域の土地の利用を関連させ、市の地形と土地利用に生かしていることに気づかせる。土地利用の気づきから交通の様子、公共施設について関連づけて考えられるようにする。また、小田原の歴史を伝えるものを調べることを通して、小田原宿で宿泊する人のために土産物が多くあり、今でも伝統を引き継ぎ売られていることにも気づくことができる。そして、総合「小田原土産を考えよう！」に発展させ、本単元で作成する「小田原紹介マップ」を生かしていきたい。

本時で児童が解決したい学習課題は、「なぜ、川の近くに田んぼや工場が多いのだろう。」である。自分たちが住んでいる三の丸小周辺（海の近く）と川の近くを比較し、様子が違うことから興味をもたせる。調べ活動では、地図や資料（わたしたちの小田原など）を根拠に話せるように、付箋を貼ったり、「発見！カード」にメモしたりできるようにする。

本時展開の伝え合いの場面では、一部の児童で話し合いが進む学級の実態を踏まえ、次のような手立てをとっていく。

1 つ目は、2 段階の場の設定である。【ステージ 1：グループで自分の考えを伝える。】「発見！カード」に

書いたことをグループで全員が発表して、自分の考えを意思表示できるようにする。その際、考えの根拠も合わせて伝えることや友達の考えを聴くことで、ものの見方がより広く深くなることを実感できると考える。【ステージ2：他のグループをまわる。】前半は「さらに発見タイム」で相違点を見つける。後半は「質問タイム」で関わり合う。前半と後半で時間を区切ることで、他のグループの考えをじっくり見てメモする時間と関わり合う時間をお互いに確保できる。他のグループをまわることで、関わりながら学ぶことの面白さに気づかせたい。

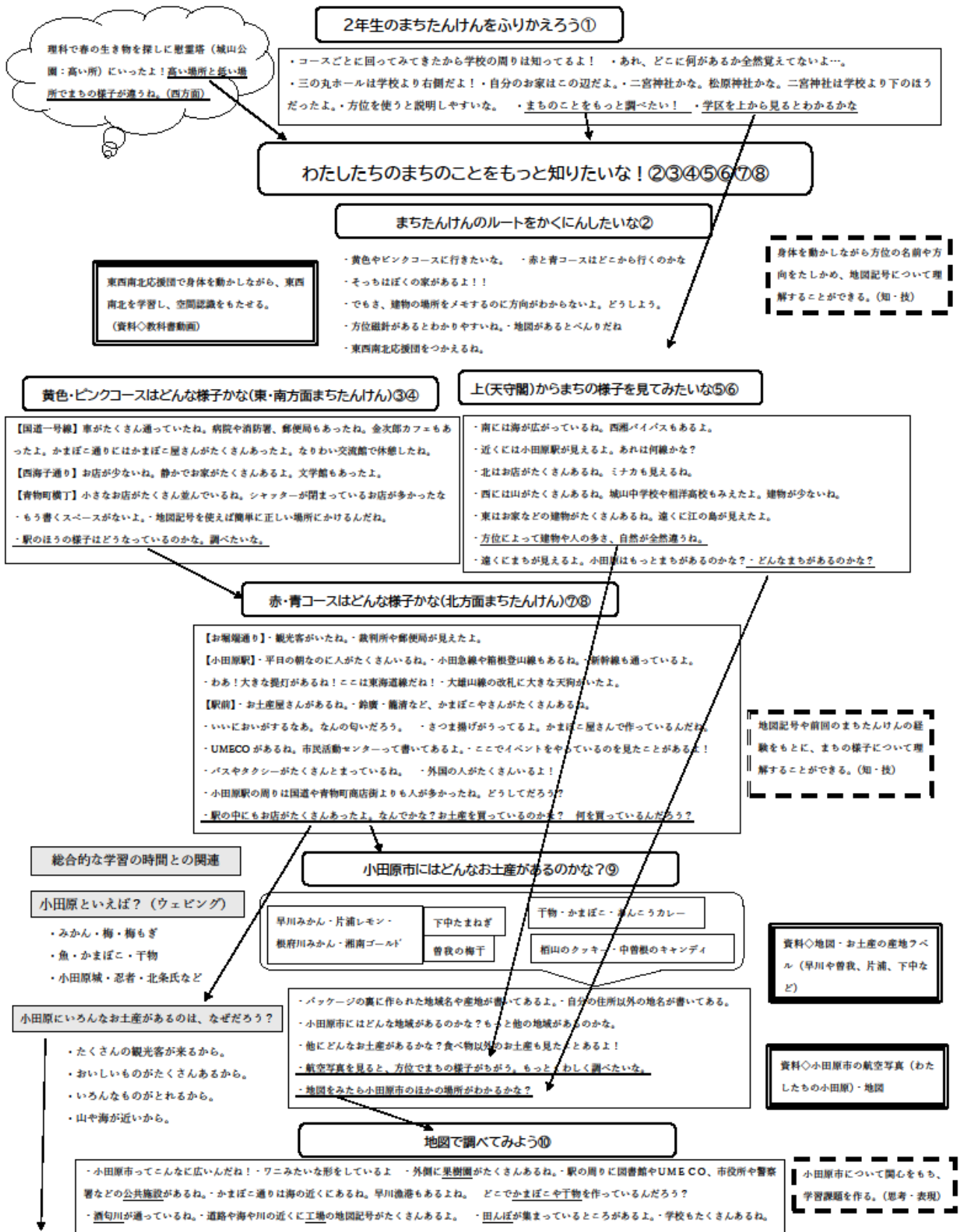
2つ目は、「伝え合いのメニュー（手順）」の提示である。「伝え合いのメニュー」の中に、相違点を見つけるだけの一方通行になってしまわないように、関わり合うためのアイテムとして、「〇〇さんが言いたいことは、こういうこと？」「〇〇さんはどう思うの？」「くわしく教えて。」「もう一回言って。」「つけたして言うと」「〇〇さんは～と考えたのかな。」などの言葉を提示しておく。関わり合いがあまりできていない場合、教師の出どころとして、関わり合いの言葉を声かけする。

全体で共有する場面では、分かったことを発表させ、児童の言葉を整理して板書することで、教師の出どころとして、学習課題から学習のまとめへ焦点化していく。本時は「市の地形と土地利用」のまとめなので、それぞれの地区で魅力があるだけでなく、地形を生かしていることにも気づかせていく。「もし、自分がその地区に住むとしたら」と問い返し、自分事として切実感をもたせ、「自分だったら、その土地に合ったものを考えて作る。」など、地形の特徴を生かして土地を利用していることに気づくことができるのではないかと考える。

本時では、仲間との伝え合い活動を通して、自分の考えを広げ深めていく姿をひびき合いの姿とし、ブロックテーマ「仲間と支え合う自分」を高めていきたい。

単元目標

- 身近な市の様子を大まかに理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身につけることができる。
- 身近な市の場所による違い、人々の生活との関連などを与え、考えたことを表現することができる。
- 身近な市について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情をもつことができる。



小田原市のことをもっと知りたいな①~②

総合的な学習の時間との関連

小田原には①・④・⑥の自然の恵みがあり、**歴史**もあり、たくさんの魅力がある！

小田原のよさをもっと知ってもらいたい

- ・小田原の魅力がもっとありそう。
- ・たくさんの観光客がお土産を買っていたよ。
- ・お土産をもらった人も小田原のよさを知って来てみたいと思うね。
- ・自分たちもお土産を考えてみたい。

小田原土産を考えよう！

- ・小田原でとれるものはどんなものかな。
- ・どこでとれるのかな。
- ・歴史に関わるグッズもいね。
- ・どこで売ったらたくさんの人に買ってもらえるかな。(駅の近くなら観光客が来るよ)
- ・パッケージのキャッチフレーズはどうしようかな。
- ・ゴミが少ないパッケージがいいな。
- ・小田原はどんなSDG_eに取り組んでいるかな。
- ・あんこうを使ったお土産あったけど、かまぼこの魚だけじゃないだね。(未利用魚の活用)
- ・パッケージの裏に小田原マップを貼ったら、もっと小田原について知ってもらえるね。
- ・外国の観光客も多かったから、**外国語**で名前が書いてあった方がいいんじゃない。

考えた小田原土産を紹介し合おう

- ・お土産のアピールポイントを考えよう。
- ・どうやって伝えようかな。
- ・友だちのいいところはどこかな。
- ・もっとたくさんの人に広めたいな。
- ・学校、お家の人、地域の人にも伝えたいな。形にした方が伝わるね。

考えた小田原土産を作ってみよう！

- ・どうやってできるか調べてみよう。
- ・どうやって作れるか家の人に聞いてみよう。
- ・専門の人がいないかな。
- ・自分たちで集められる材料で作ってみよう。
- ・環境を考えた方がいいね。

作った小田原土産を紹介して、広めたい！

- ・学校の人や家の人に見てもらいたい。
- ・どこでみてもらえるかな。

・小田原市はどんな形をしているのかな。・トレーシングペーパーで市の形をうつしてみよう。①

・犬みたいな形だね。・東西にのびてね

「市の地形と土地利用」

なぜ、市の外縁(山側)に果樹園が多いのかな？①②

- ・市の外縁は久野、片瀬、早川、曾我だね。・高いところがあると日当たりもよさそう。
- ・斜面だとみかんの木が重ならないから光があびやすい。・果樹は水はけがよいほうが育つ。
- ・石垣や海からの光が反射して育つよ。・山の高い所じゃなくて少し高い200~400mのところに果樹園が多い。

なぜ、海の近くにかまぼこや干物のお店が多いのかな？③④

- ・魚がとれるからだよ。(かまぼこや干物の原料)・干物を干すのに、海の近くが…。
- ・早川漁港に市場があるよ。(小田原漁港やTOTOCOがある)
- ・とれた魚を新鮮なうちにかまぼこにできる。・新鮮なうちに食べてほしい。
- ・町たんけんにかまぼこ屋がたくさんあった。とれたばかりの魚をすぐに売りに出せる。
- ・昔から東海道を旅する人たちにもよごばれてきた。・海に近いほうが便利だから(山だと運ぶの大変)
- ・かまぼこはシログチの魚が必要(国語辞典で白身魚でかまぼこできると書いてあった。)
- ・相模湾で新鮮なシログチやアジがすぐ手に入るし、塩も豊富。地下水がよい。(小田原の水はミネラルをよむ)・電車を通る道があるから、かまぼこや干物を買う
- ・川と海はつながっているけど、川では、かまぼこや干物の魚とれないよ。
- ・酒匂川の近くは、田んぼや工場の地図記号が多いよ。

なぜ、川の近くに田んぼや工場が多いのかな？⑤⑥(本時)

- ・酒匂川は大きいね。・フイオンやアマゾン工場もあるよ。工場が集まっているね。
- ・三の丸小の周りとは違うね。・田んぼや工場には水がたくさん使えそう。
- ・高速道路の入り口が近くにあるね。

なぜ、小田原には線路や道路がたくさんあるのだろう？⑦

- ・町たんけんで大塚山線、東海道線、東海道新幹線、小田急線、箱根登山線があったよ。
- ・お家の人は遠くの仕事で新幹線を使っているよ。
- ・線路や道路が多いと、便利だから観光客もたくさん来るよ。
- ・古くからある建物をよく見る人もいんだね。
- ・高速道路が近いと工場などでできたものはこびやすいね。

「小田原の歴史を伝えるもの」

古くからあるものは、どんなものがあるのだろう？⑧

- ・小田原城など有名なものがある。・図書館に歴史の本がありそうだね。
- ・UMECOに建物や歴史の場所がのった観光パンフレットがあったよ。
- ・歴史で有名な人や建物がある。町たんけん近くで文学館もあった。
- ・昔々のお土産屋さんがたくさんある。松原神社もあるよ。
- ・小田原宿で宿泊する人のために土産物が多くあり、今も残っている。(かまぼこ・ういろう・ちようちん)

「市にある公共施設」

小田原市には、どこにどんな公共施設があるのだろう？⑨

- ・公共施設はみんなが利用し、生活しやすいための施設だからもっとあるよ。
- ・小田原市は広いことが分かったから、ウメコのような施設は他にもありそうだ。(マロニエ)
- ・ミナカ以外にも図書館もあるんじゃない。(かまの図書館など)
- ・パンフレットやマップを置いて、小田原のいい所や観光地、参加できるイベントの紹介もしているよ。

小田原紹介マップにまとめよう⑩⑪

資料◇地図・わたしたちの小田原
線路と川をかけた白地図

小田原市の地図の地図記号や土地の使われ方から、気づいたことや気になることをノートにまとめることができる。(思考・表現)
これまでの学習で得た知識やまちたんけん、生活経験、資料を根拠に予想を立てることができる。(思考・表現)

調べたことや友だちの考えから地形の様子と土地利用を関連づけて考えることができる。(思考・表現)

資料◇地図・インターネットの資料や写真・図書館の資料・わたしたちの小田原・観光パンフレット・インタビュー(家の人や学校)・国語辞典

土地利用と交通を関連づけて考えることができる。(思考・表現)

小田原に古くからあるものを調べることを通して、今なお伝統を引き継がれていることに気づくことができる。(知識・理解)

人々の生活と関連づけて、公共施設の使われ方について理解することができる。(知識・理解)

これまでの学習を生かし、市の特徴を関連づけてマップにまとめることができる。(思考・表現)

6 本時について

本時目標	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
<p>なぜ、川の近くに田んぼや工場が多いかについて伝え合う活動を通して、地形の様子と土地利用を関連づけて考えることができる。</p> <p>学習活動 ・予想される児童の反応</p> <p>(前時のふり返り) 山側写真 海側写真 川の近く写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三の丸小の周りとは違うね。・久野、片浦、曾我など山側の地区は果樹園が多かったね。 ・海の近くは、かまぼこや干物のお店が多かったね。・酒匂川近くの地区は田んぼや工場の地図記号が多い。 ・酒匂川沿いに工場が集まっているね。・ライオン、アマゾン、紙幣、薬の工場もあるよ。 <p>なぜ、川の近くに田んぼや工場が多いのかな</p> <p>田んぼ さかわ川は大きい 工場</p> <p>お米は水が必要 → 水をたくさん使う ← 物を作るとき水を使う (×塩水、水をはる) (工場からの水をきれいに)</p> <p>川に近い方がべんり</p> <p>田んぼを作りやすい ← 平らな場所 → 工場を作りやすい (水をひく、○昔のくらし)</p> <p>高速道路や鉄道が近い → 原料や工場ですぐ運べる</p> <p>平らな場所じゃなくて山側には作れないの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斜面だと水をひきにくい ・山側は果樹の方が向いている <p>自分がその地区で生活するとしたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川が近くにあるなら利用した方がべんりだから、その土地に合ったものを作る <p>まとめ 地形を生かして、土地を利用している。</p> <p>今日の「なるほど！」</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇〇さんの田んぼの説明がなるほどと思った。 〇〇さんの説明の仕方がわかりやすかった。 <p>【ステージ1】グループで伝える 【ステージ2】他のグループをまわる 前半「さらに発見タイム」相違点を見つける。 後半「質問タイム」くわしく聞き、関わり合う。</p> <p>「〇〇さんが言いたいことは、こういうこと？」 「〇〇さんはどう思うの？」 「くわしく教えて。」「もう一回言って。」「つけたして言うと」</p>	<p>◆評価【観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で使用した山側・海側・川近くの写真を提示し、地形の違いを確認し、本時の課題につなげる。 ・「発見！カード」に書いたことをグループで発表するときに、「伝え合いのメニュー」を使って、全員が話せるようにする。 ・分かったことや考えたことを、地図や資料を根拠に話せるように促す。 ・関わり合いがあまりできていない児童に、関わり合いの言葉を提示し、声をかける。出どころ ・分かったことを全体で共有する。 (児童の言葉を板書整理→まとめへ焦点化出どころ) ・「山側じゃ作れないの？」と問い返し、「自分がその地区で生活するとしたら」と自分事として考え、まとめにつなげていく。 ・高速道路などの気づきから、次時の課題(交通の様子)へ意欲をもたせる。 <p>◆川の近くの特徴について調べたことから、地形の様子と土地利用を関連づけて考えている。 【思考・判断・表現】</p>

7 実践を終えて

<成果と課題>

(1) 本時の様子

導入では、前時の学習で使用した山側と海の近くの様子と、本時の川の近くの写真を比較し、地形の違いを確認した。それぞれの特徴はよく捉えていた。しかし、まとめの段階で地形の様子や土地の利用を関連づけて考える資料として生かしきれず教師主導になってしまった。

その原因として、学習問題の内容に課題があったと考えられる。学習問題「なぜ、川の近くに田んぼや工場が多いのだろう。」だと、地形の特徴と関連づけて考えることよりも「水をたくさん使うから」「米の作り方」などの方法に着目する児童が多く、ねらいからずれて内容が広がりすぎてしまう。そこで、学習問題を「なぜ、小田原の真ん中に田んぼや工場が多いのか」の方が、「川が近くにあるから」「工場は平らな場所の方が便利だから」など、地形に着目した児童の反応がもう少し多く出たのではないかと考える。

成果としては、前時の調べ活動で資料に付箋を貼ることや、「発見！カード」にメモをしたことで、本時のグループで伝え合う時には進んで自分の考えを伝えたり、根拠をもって話したりすることができた。

(2) 授業後の実践

本時の授業後は「市の地形と土地利用」をもとに、「交通の様子」「小田原の歴史を伝えるもの」「市にある公共施設」について調べ学習を進めた。地図や資料の読み取り方を本時で学んだので、進んで調べる姿や資料の探し方を教え合う姿が見られた。また、本時の学習から「かまぼこについて調べたときに歴史に関係している。」ことに気づき、学習した内容と関連付けて考える姿も見られた。

本単元を通して、「三の丸地区のことをもっと好きになった。」「小田原市には自然がたくさんあっていい場所だと思った。」など、よさや魅力を発見していた。また、自分の住んでいる地域や学校の歴史についてもっと知りたいという気持ちが高まり、総合の学習につながり進められている。

(3) ブロックテーマとの関連、教師の出どころ（重点項目）

本授業でのひびき合い「仲間との伝え合い活動を通して、自分の考えを広げ深めていく姿」についての成果は、全体共有の場面で「～さんに付け足しで」と友だちの考えにつなげながら、自分の考えを発表しようとする姿が見られた。

ひびき合うための手立てについては、伝え合いの場面をグループから全体へと2段階の場を設定したことで、自分の考えを友だちの考えと比較したり、進んで友だちの考えを知ろうとしたりする姿が見られた。

また、話型や伝え合い方の手順を提示することで、話すことに苦手意識をもっている児童も話し合いに参加することができた。しかし、型にとらわれて考えを広げることが難しくなった児童もいた。話型や伝え方の手順を場面に応じて児童が自分の言葉として活用しながら、考えを広げられるようにしていきたい。

ブロックテーマ「仲間と支え合う自分」については、グループの伝え合いで「～さんがこういうことを書いてあったよ。」「ここに書いてあったよ。」など、「関わりあうためのアイテム（言葉）」を提示したことで仲間と協働し問題を追究する姿が見られた。

課題としては、子どもたちの考えを、教師が焦点化させ具体的な話し合いをさせることで、全体の気づきとなり、そのためには、子どもたちの考えをしっかりと把握し、ねらいにずれないような意図的な指名など、教師の出どころを工夫する必要があった。

